継手の接続とご注意

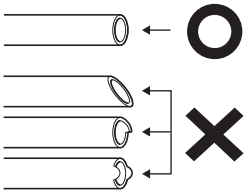
架橋ポリエチレン管とWタイプ継手の接続

●Wタイプ継手は、架橋ポリエチレン管専用継手です。ポリブテン管には使用できません。
●Wタイプ継手拡径用工具はエキスパンダー2(サイズ10・13・16・20用)とエキスパンダー(サイズ10・13用)の2種類があります。

サイズ10~20

①架橋ポリエチレン管の切断

●架橋ポリエチレン管の端面を塩ビカッター等鋭利な刃物で管軸に対して直角に切断します。
※樹脂管ガイドと接続した部分や架橋ポリエチレン管の内外面に傷のある場合は、その部分を一緒に切断して取り除きます。

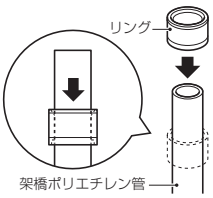


ご注意

- 架橋ポリエチレン管の接続面は、斜め切りになったり、潰れ、バリ、段差が無いように切断して下さい。継手と確実に接続できなくなり、漏水の原因となります。

②リングの取り付け

●継手本体からリングを取り外し、架橋ポリエチレン管に通します。

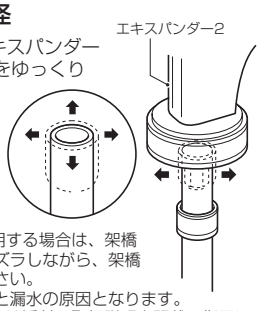


ご注意

- リングには方向性があります。リングに表示の矢印を管端に向けて架橋ポリエチレン管にはめて下さい。リングが正しく収まっていないと、圧入工具が破損したり、漏水の原因となります。

③架橋ポリエチレン管の拡径

●エキスパンダー2もしくはエキスパンダーで架橋ポリエチレン管の管端をゆっくり拡径します。

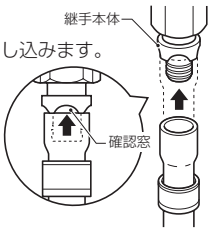


ご注意

- 架橋ポリエチレン管の拡径はゆっくり行って下さい。気温が低い場合(5°C以下)は特に注意が必要です。
- エキスパンダー(10・13用)を使用する場合は、架橋ポリエチレン管端部の拡径位置をズラしながら、架橋ポリエチレン管を均一に拡げて下さい。
  ※架橋ポリエチレン管に傷が付くと漏水の原因となります。
- エキスパンダー2、エキスパンダーは添付の取扱説明書記載の指示に従い、正しくご使用下さい。

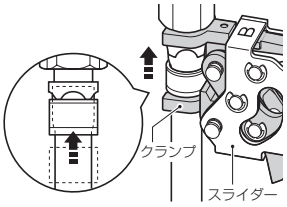
④架橋ポリエチレン管の挿入

●架橋ポリエチレン管を継手本体に差し込みます。
※管端を確認窓の中程まで差し込んで下さい。



⑤リングの圧入

●スライダーのクランプで継手本体とリングを挟み、リングが継手本体に当たるまでスライダーで押し上げ圧入します。
※施工後、確認窓から架橋ポリエチレン管が見えることを確認して下さい。



ご注意

- 架橋ポリエチレン管の取り付けは確実に行って下さい。差し込み不足、圧入不足は漏水の原因になります。
- スライダーは添付の取扱説明書記載の指示に従い、正しくご使用下さい。

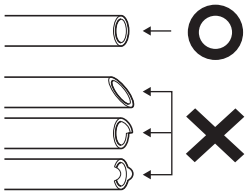
樹脂管とMタイプ継手の接続

●Mタイプ継手はサイズ10・13が架橋ポリエチレン管、ポリブテン管兼用継手、サイズ16・20が架橋ポリエチレン管、ポリブテン管各々専用継手です。

サイズ10~20

①樹脂管の切断

●樹脂管の端面を塩ビカッター等鋭利な刃物で管軸に対して直角に切断します。
※樹脂管ガイドと接続した部分や樹脂管の内外面に傷のある場合は、その部分を一緒に切断して取り除きます。

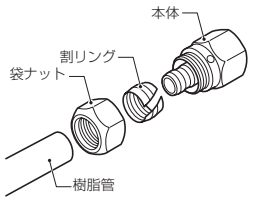


ご注意

- 樹脂管の接続面は斜め切りになったり、潰れ、バリ、段差が無いように切断して下さい。継手と確実に接続できなくなり、漏水の原因となります。

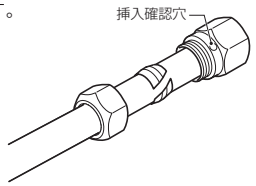
②袋ナットと割リングの取り付け

●継手本体から袋ナットと割リングを取り外し、樹脂管に袋ナット、割リングの順に通します。
※割リングには、方向性がありませんから、どちらから差し込んでもOKです。



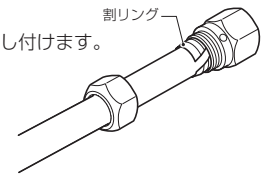
③樹脂管の挿入

●樹脂管が継手本体の確認窓から見えるまで、確実に奥まで差し込みます。



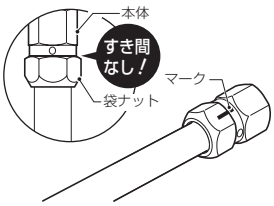
④割リングの押し付け

●割リングを継手本体に押し付けます。



⑤袋ナットの締め付け

●袋ナットが継手本体に当たるまで確実に締め付けます。
※締め付け後、継手本体の確認窓から樹脂管が見えることを必ず確認して下さい。
※締め付け後、袋ナットと継手本体間にマークを付けるとナットのゆるみ等の確認に役立ちます。



ご注意

- 継手及び樹脂管の取り扱いには十分注意し、接続は確実に行って下さい。傷が付いたり、差し込み不足、締め込み不足により漏水する恐れがあります。